



全国女性建築士連絡協議会 初参加報告

札幌支部 往田 協子

9月25日、26日、東京で開催された平成27年度第25回全国女性建築士連絡協議会に初参加させていただきました。

今回のテーマは「未来へつなぐ居住環境づくり」～次世代へ伝えたい、こと・もの・暮らし～。全国から約200名の女性建築士が集まり、初日は開会式のあと基調講演、パネルディスカッション、翌日は分科会と全体会、そして閉会と、熱い2日間でした。

基調講演は初代連合会女性委員長の村上美奈子氏「全建女の立ち上げと居住環境づくり」。女性建築士の組織の必要性(全建女の役割)、女性建築士の取組姿勢、全建女の今後、という内容。この業界で女性としての差別、一方女性だからこそこの気付き、出来ること、女性視線の実際の設計提案例等、私を含め多くの女性建築士や関連職種に就いている女性が日頃思い感じていることを言葉にし、課題に向き合ってきたことを実感して勇気を頂きました。また全建女の歴史を知り、過去の錚々たる顔ぶれ、活動に深く敬服しました。

その後のパネルディスカッションのテーマは「未来の居住環境と暮らし方」。パネラーは日本色彩学会名誉会員で建築色彩計画47年のご経験を持つ80歳の若々しくカッコいい女性、門田真午子氏。三井化学R&D関連の広報とイベント運営をご担当、仕事と家庭をしなやかに両立され、ユーモアセ

ンスある竹林のぞみ氏。建築とユニバーサルデザインを学び学生コンペで奨励賞を受賞、将来建築を目指す現役女子大生、内藤麻美氏。大工の娘として生まれ会社を継ぎ、女性が輝く経営を实践、内閣府、経済産業省の国家表彰を3年連続で受賞、ダイバーシティ、ワークライフバランスを積極的に推進しているダイナミックな女性、籠田淳子氏という顔ぶれでした。

「暮らし方」というソフト面についての討論の中で、心のバリアフリー、ユニバーサルデザイン、シルバーハウス、シェアハウスなど、パネラーの皆様の皆様のご経歴通り多様化へのまとめとなりました。

1日目の締めは意見交換会。全国に高い意識を持ってご活躍されている女性建築士の皆様が大勢いらっしゃることに驚き、また我々北海道の活動も全国に誇れる活動だと認識しました。

2日間を通し、全国の女性建築士の皆様パワーを頂きました。私は建築士会主催のセミナーに参加したことをきっかけに入会し、まだ3年にも満たないのですが、周囲の方々にお声掛けいただき貴重な体験をさせていただいています。皆様に感謝しつつ、今後の成長の糧としていきたいと思えます。



連載第4回(全4回)

ライフオーガナイザー について

1級建築士・ライフオーガナイザー
函館支部 岩崎 美乃

オーガナイズで一番時間のかかるのが書類・本・写真など。量が膨大になる可能性もあります。

今回は苦手な方向けに2つのポイントをお伝えします。

1つ目は情報の鮮度について、2つ目は情報の加工です。

これ、お料理に似ていませんか？例えばもやし。冷蔵庫に入れっぱなしだと腐ってしまい、そのまま食べても味気がないですよ。

情報はどんどん新しいもの変わっていきます。情報は、探し方さえわかっているならば、いつでも必要な時に最新情報を手に入れることができるようになりました。手に入らないモノ以外は持たなくとも良いと割り切ることが大切です。情報は鮮度が大事なのです。腐らせてしまったものはもう食べられません。

そして、情報そのものは「材料」として、使う人が使いやすいように加工しておくことよいのです。例えば、参加するセミナーの案内はいつも使っているカレンダーや手帳、webスケジュール等に日時などの詳細を書き込んで、紙やメールは処分します。(私は忘れないようにアラーム機能も入れています)

でも、例外もあります。思い出のモノです。こちらは情報から切り離し、思い出のモノとして保管します。

情報は、「どのくらいの量をいつまで持つか」をしっかり決めることをお勧めします。